



丹南・来迎寺を参拝された三笠宮妃

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

松原 歴

史
ウ
オ
ー
ク



▲来迎寺本堂でお参りされる三笠宮妃 (来迎寺蔵)



▲三笠宮妃を出迎えられる故塩野泰通方丈(当時) (丹南3丁目・来迎寺蔵)



▲平成2年10月、来迎寺を参拝された三笠宮妃を紹介する産経新聞記事 (令和6年11月16日付朝刊)



▲来迎寺墓地の高木正次墓 (寛永7年・1630年没。享年68歳)



▲山門前「高木主水正陣屋址」碑前で



▲初代丹南藩主高木正次墓に参拝される三笠宮妃 (来迎寺蔵)

丹南藩主高木氏歴代の菩提寺
13代藩主正善の孫、百合子さま

三笠宮妃百合子さまが、十一月十五日、薨去されました。明治時代以降の皇室では最高齢の一〇一歳でした。二十六日、本葬にあたる「斂葬の儀」が東京・豊島岡墓地で営まれました。昭和天皇の末弟の三笠宮崇仁親王の妃

で、上皇様の叔母にあたられます。

百合子さまは大正十二年(一九二二)六月四日生まれ。父は、子爵の高木正得氏です。正得氏は最後の十三代藩主正善の子で、百合子さまは昭和十六年(一九四二)十月に皇室に嫁がれました。

高木氏はおもに主水正を名のり、江戸時代を通じて、一万石の大名として代々、丹南藩の藩主を務めました。丹南藩は元和九年(一六二二)、三河(愛知県)出身で徳川氏直臣の高木正次が丹南に本拠の陣屋を置き、高木氏は、丹南や池内・堀向井・高木・清水・一津屋の本市をはじめ、堺市・羽曳野市・八尾市・大阪狭山市の二十二か村を領地としていました。

高木氏が陣屋を置いた場所は、今の丹南三丁目にあたり、融通念仏宗の名刹で、中山山の来迎寺に隣接していました。

高木氏は、来迎寺を菩提寺として信仰し、維持につとめたことから、本堂には歴代藩主の位碑が祀られ、境内墓地には初代正次と十一代正明の五輪塔がつくられました。また、旧丹南藩士の墓石も見られ、正得氏は昭和十二年(一九三七)八月、旧藩士家の三十七名の協力を得て、山門前に「舊丹南藩主高木主水正陣屋址」の石碑を建てています。

百合子さまは、こうした絆から平成二年(一九九〇)十月五日、来迎寺を訪問され、本堂にお参りされた後、正次や正明の墓を参拝されました。当日、故塩野泰通方丈をはじめ、各地区の檀家総代など多数の方々が出迎えられました。現方丈の塩野則行さんもおつと

めに加わられ、「自分は二十歳を過ぎたばかりでしたが、気品あるなかに、あたたかく、親しみ深いお方でした」と当時のことを話していただきました。

来迎寺には、参拝時に写された多くの写真がアルバムに大切に保存されています。そのうちの一部は、本堂にパネルにして飾られ、拝見することができます。

産経新聞は、百合子さま薨去を受け、翌十一月十六日朝刊で、「高貴で気品おありに／阪神大震災ご心配／皇室守られてきたー関西からも惜しむ声」の小見出しで、来迎寺参拝時の様子を大きく取り上げています。

紙面の中で、塩野方丈は「紺のスーツ姿。高貴で気品があった」と印象を語っています。また、「丹南にとって、百合子さまは皇族の中で近いお方。喪失感がある。」と述べられ、令和十一年に、初代藩主である、正次公の四〇〇回忌が予定されていることから、「百合子さまにご報告しあげたかった。それがかなわず残念です」という記事が掲載されました。

同寺が提供した百合子さまが山門の「高木主水正陣屋址」碑をバックに撮られた写真もカラーで紹介されています。

塩野方丈ご夫妻は、十一月二十日、皇居内の赤坂御用地にある三笠宮家をご弔問されました。孫の三笠宮彬子さまや長女の近衛篤子さまにお会いされ、お話しをされたとのこと。

四〇〇年の刻を経て、来迎寺と三笠宮家は、旧丹南藩主高木氏を通じ、結びついています。